



本田準備から除草剤散布までの管理作業！

水稻の農作業が本格化する前に移植時期にあわせ資材や農機を準備し、余裕をもって作業を行いましょう。

その1. 圃場準備と田植えのポイント！

圃場準備と移植は要点を押さえ行いましょう。

～代かき作業～

- 入水は、余裕をもって代かき1～2日前に行い、土を水になじませましょう。
- 麦わらをすき込む場合は、「浅水(田面が8～7割程度見える状態)」で行いわらの浮き上がりを防ぎましょう。
- 代かきは、漏水を防ぐために丁寧に行いましょう。苗の活着や除草剤の効きをよくするため、できるだけ均平にしましょう。
- 代かきから田植までの期間が短く、やむを得ず、代かき直後に落水する場合でも、河川を汚濁しないよう濁りが治まって行いましょう。

～移植作業～

- 以下に注意し、田植機の調整しましょう。
 - ・ 栽植密度 → 45～50株/坪程度 (株間22～25cm程度)
 - ・ 植付本数 → 平均本数は3～4本/株程度
 - ・ 植付深さ → 3cm程度

これ以上の密植、大苗は、過繁茂になりやすく、倒伏や、病害虫が発生しやすくなります。

その2. 除草剤散布のポイント！

移植後の除草剤散布は、確実に効かせるために以下のポイントを押さえましょう。

- 代かきをするとノビエは生えはじめます。使用時期を確認の上、早めに散布しましょう。
- 除草剤は、土壤表面に薬剤が定着し効果を発揮するので、①十分な深水で散布し、②3～4日は湛水を保ち、③散布後7日間は落水しない、管理を行いましょう。
なお、散布後7日間(特に始めの3～4日間)は、しっかり効かせるため、水があふれないよう注意しましょう。
- ジャンボタニシがいる圃場では、食害回避のため移植後2～3週間頃まで浅水(1cm程度。深い場所でも4cm以下)で管理しましょう。除草剤散布の際は、深い部分にあらかじめジャンボタニシの防除薬剤を散布するなど対策を取りましょう。

